

平成22年5月28日

独立行政法人

郵便貯金・簡易生命保険管理機構

理事長 殿

アジア保育教育交流推進実行委員会

代表 森 みどり

国際ボランティア貯金に係る寄付金による援助事業の完了報告書
(機構第4069号(H21.3.3)関連)

標記について、下記のとおり報告します。

記

1 援助事業名(対象国・地域)

スラム地区、少数民族居住地区の保育園・図書館スタッフのスキルアップ研修の実施及び保育・幼児教育研修センターの設置〔タイ〕(タイ王国・バンコク、ターソンヤン郡)

2 配分額

配分額 3,529,000円

内訳 受領額 3,499,000円(既返還額除く)

未受領額 0円

返還予定額 488,581円

3 配分事業の総費用額等

総費用額 4,283,294円内訳 自己資金額(総費用額-(受領額-返還予定額)) 1,272,875円自己資金額の割合(自己資金額÷総費用額×100) 29.7%

4 援助事業の実施状況及び効果等

(1) 日本人スタッフの派遣状況（様式7）

別紙

(2) 第1回バンコク研修事業

内容：バンコクの保育園・保育士を対象とした「手作りおもちゃ」「集団遊び」「絵本の読み聞かせ」「手作り絵本」などについての研修

日程

- 8月31日（月） 関西空港発 スタッフ4名出発
バンコク到着 スラムの見学と事業説明
研修についての財団スタッフとの最終打ち合わせ及び準備
- 9月1日（火）～2日（水） シーカーアジア財団スタッフを対象とした研修
テーマ 「子どもの育ち」「手作りおもちゃ」「絵本を楽しもう」
研修対象：シーカ・アジア財団スタッフ 参加人数；21人
- 3日（木） 財団スタッフ及びバンコクの教育関係者を対象とした研修
テーマ 「絵本を読み合うということ」
シーカーアジア財団（20人）と大学、出版関係者（42人）
- 4日（金）～5日（土） 一般公募による保育教育者を対象とした研修
テーマ 「子どもの育ち」「手作りおもちゃ」「絵本を楽しもう」「集団遊び」
バンコク市内保育園。幼稚園から公募で参加者 参加者；82人
- 6日（日） 「研修・教材センター」開設に向けた最終準備および打ち合わせ
「研修・教材センター」開設式
スタッフ2名 深夜便で帰国
- 7日（月）～9日（水） スタッフ2名による現地状況の調査、スラム・農村等の視察（予定）
- 9日（水） スタッフ2名 深夜便で帰国

派遣者の氏名と活動日程

蕨川晴之	（わかくさ保育園・保育士）	8月31日～9月6日
廣田峰子	（こども情報研究センター・保育士）	8月31日～9月6日
加藤啓子	（絵本出版社絵本普及員）	8月31日～9月6日（9日まで滞在）
松尾純代	（帝塚山大学教員・保育士）	8月31日～9月6日（9日まで滞在）
村中李衣	（児童文学教授）	9月3日～9月5日（団体負担）
増田和生	（大阪マイペンライ）	9月2日～9月6日（団体負担）
稲葉貞夫	（大阪マイペンライ）	9月4日～9月6日（団体負担）

(3) 研修・教材開発センターの設置

名称 研修教材開発センター

場所 バンコク都 クロントイ・スラム シーカー・アジア財団敷地内

設備・備品の内容

センターの面積 : 33㎡（6×5.5m）

設備： 玄関扉、看板、作業用机、いすほか

図書： 保育園補充用絵本 1000冊、参考書籍・参考絵本 333冊

教材： 布絵本10冊、エプロンシアター30セット、手作りおもちゃ20種、素材（フェルト、刺繍糸など）などを備える。

パソコン： インテルコアプロセッサ、2.33GHz、2GB

メモリー 2GB、デスクトップディスプレイ

プリンター、無停電電源装置 ほか

ウェブ： 2010年2月に開設し、順次内容を追加している。

<http://www.tdecenter.org/>

その他： ダンボールの面展台などを備えている。

運営方式

シーカー・アジア財団が管理運営し、当会の招聘研修（2009年7月4日～18日に大阪で実施）に参加した同財団のスタッフ2名がセンター担当として、運営に当たる。

運営スタッフ氏名 （アリッサ・ウッパーシー）（ピヤマート・ナークトクン）

開所式・供用の開始

2009年9月6日 午前10時

出席 シーカー・アジア財団 アルニー事務局長

アジア保育教育交流推進実行委員会 稲葉事務局長

来賓 駐タイ日本大使館 元林 一等書記官

(4) 第2回ターソンヤン郡研修事業

第2回ターソンヤン郡研修事業

内容： ターソンヤン郡の保育園・保育士を対象とした「手作りおもちゃ」「集団遊び」「絵本の読み聞かせ」「手作り絵本」などについての研修

日程

2月17日（水） 関西空港発 スタッフ4名出発

バンコク到着 ターク県に向けて移動

研修についての財団スタッフとの合わせ

18日（木） 現地事情についての研修・視察

研修についての最終打合せ・準備

19日（金） 研修「手作りおもちゃ、集団遊び」「子どもの育ちの保障」

研修参加者 65名

（保育園・幼稚園関係者 38名、学校関係者 20名、行政その他関係者 7名）

20日（土） 研修「絵本の読み方、楽しみ方」「手作り絵本」

研修参加者 65名

21日（日） 研修・討議「グループでの話し合い」

研修参加者 65名

バンコクへ移動

22日（月） バンコクのスラム地区視察

23日（火） 教材開発・研修センター登録者の集いでの意見交換

24日(水) ターク県での研修の総括会議 事業全体のまとめの会議ほか
 バンコク発 深夜便で帰国

派遣者の氏名と活動日程

稲田祥子	(わかくさ保育園・保育士)	2月17日～24日
二葉智代	(こども情報研究センター・保育士)	2月17日～24日
加藤啓子	(絵本出版社絵本普及員)	2月17日～24日
松尾純代	(帝塚山大学教員・保育士)	2月17日～24日

(5) モニタリング

第1回研修事業後の状況、研修・教材開発センター設置後の反響等についてヒヤリングを行う。

日程 2009年12月

(6) 援助事業の目標、事業計画の評価・反省

別紙

5 配分項目別経費の使用状況

配分項目	①配分決定額 (千円)	②変更申請後及び10%以内の 流用後の額 (円)	③実際の使用額 (円)	④差額(①-③) 又は②-③) (円)	備考
日本人専門家・スタッフ航空運賃(日本-タイ:4人×1回)	300	300000	208000	92000	
日本人専門家・スタッフ航空運賃(日本-タイ:4人×1回)	392	371094	187680	183414	
日本人専門家・スタッフ滞在費(4人×6日+4人×7日)	168	156000	156000	0	
日本人専門家日当(3人×7日×2回)	144	126000	135000	-9000	
日本人専門家現地交通費(ガソリン代)	18	21600	77084	-55484	
研修会宿泊費(500人)	150	150000	45027	104973	
研修関係費(会場費:2カ所)	27	27023	27023	0	
研修関係費(資料作成費・教材購入費:80人×2回)	216	223677	223677	0	
現地交通費(ガソリン代)	72	72000	11041	60959	
人件費現地スタッフ・研修会準備、運営補助スタッフ日当(10人×5日×2回)	60	60000	96640	-36640	
人件費現地スタッフ・通訳日当(7日×2回)	42	42000	42000	0	
研修センター設置・運営費(改修工事一式)	630	631943	631943	0	
研修センター設置運営費(教材購入一式)	126	126000	100132	25868	
研修センター設置運営費(参考図書等購入費一式)	180	180000	168840	11160	
研修センター設置運営費(保育園補充用絵本購入費:15冊×50カ所)	473	473000	467677	5323	
研修センター設置運営費(デー	153	153000	151623	1377	

タ処理用パソコン購入費)					
研修センター設置運営費(広報紙、カタログ作成費)	126	126000	122882	3118	
研修センター設置運営費(ウェブ作成経費)	72	79663	79663	0	
現地スタッフ雇用費(12カ月)	180	180000	179611	389	
合計	3529	3499000	3111543		

返還予定額 488581円

①配分金に係る会計帳簿 別添

- 国際ボランティア貯金事業帳簿(国内)
- 国際ボランティア貯金事業帳簿(現地)
- 国際ボランティア貯金項目別支出表
- 国際ボランティア貯金項目別集計表

②配分金に係る領収書等の添付 別添

③両替票の添付 別添

6 援助事業の完了時期

平成22年3月31日

7 現地の人々の反響・意見

(1) シーカー・アジア財団スタッフを対象とした研修

テーマ 「子どもの育ち」「手作りおもちゃ」「絵本を楽しもう」「手作り絵本」

9月1日(火)～2日(水) 参加人数:21人

- ・ 各事業体制を工夫し昨年とは違うスタッフを送り出している事業所と、昨年と継続した参加者があった。
- ・ 手作りおもちゃについては、昨年とは違うおもちゃであったことから新たなおもちゃの開拓が出来たと評価が高かった。
- ・ 絵本、手作り絵本については、昨年に引き続く加藤啓子さんと新たに村中さんが加わり、より充実した内容となった。
- ・ 全体を通して、こどもとともに遊ぶことの大事さ、楽しくコミュニケーションをとること、読み手とこどもが絵本を通して心を通いあわせることなどを実体験する研修となったようだ。

- ・ アンケートの詳細結果はまだ出来ていないが、内容・運営状況について評価が高く次回開催を求める意見が多くあった。

(2) 財団スタッフ及びバンコクの大学関係者・出版関係者を対象とした研修

テーマ 「絵本の力を現場に活かす」

シーカー・アジア財団(20人)と大学、出版関係者(42人)

- ・ 加藤啓子さん、村中李衣さん、二人のコラボレーションの講義で、大学関係者、医療関係者、出版関係者などスタッフ以外に42人が参加した。昨年に引き続き研修であり、昨年の評価の高さが今回の人数増加につながったと思われる。
- ・ こどもと読み会うことの楽しさを伝える研修であったが、アンケートに書かれた内容には、「絵本を読み手が楽しむことが、こども自身が絵本を楽しむことにつながる」「絵本を通してこどもコミュニケーションをとることの大事さを感じた」「絵本の絵を読むことを学んだ」などなど、研修会の意図を理解しての意見が多く現れていた。
- ・ また、研修終了後に講師を取り囲んでの意見交流も上記の内容が多くあった。

(3) 一般公募による保育教育者を対象とした研修

テーマ 「子どもの育ち」「手作りおもちゃ」「集団遊び」「絵本を楽しもう」「手作り絵本」

バンコク市内保育園。幼稚園から公募で参加者 参加者；82人

- ・ 昨年引き続いての参加者は数人で、新たな参加者が大半であった。各保育園、幼稚園は体制を工夫し、新たな参加者を研修に出してきたと思われる。その人数が82人であり、昨年の評価の高さが伺われる申し込み人数であった。
- ・ アンケート集計詳細は出来ていないが、参加者の感想、アンケート記載の感想などには、この内容での研修を実施したシーカー・アジア財団に対して感謝する意見が相次いでおり、こどもとのコミュニケーションの大事さ、「絵本を読み会う」意義、こどもが楽しめる保育所にしたいなどの意見が出されており、研修開催の意義、開催趣旨は十分伝えられる研修であったと思われる。
- ・ シーカー・アジア財団、研修教材開発センターの意義付けにもつながり、会員も100名に増えている。
- ・ 7日には、研修実施の依頼が研修教材開発センター届いており、評価の高さの現れである。

(4) バンコク保育士研修会に関するアンケート 結果 別紙

(5) 研修教材開発センター会員との懇親会 別紙

8 監査結果

上記の記載事項及び会計書類を監査したところ、援助事業の実施結果は正しく記載されており、また配分金の適正な使用と添付の会計書類に不備がないことを確認した。

監査年月日 平成22年5月25日

監査役氏名 印

監査役氏名 印